#02.ゆるーい幼馴染と初めてづくしの初エッチ♪

//あなたの家・あなたの部屋

「んじゃあ、まぁ…まずはキス…からだよね？　ふつーは」

「ん…それじゃあそういう感じで…」

「ねぇ」

「…もしかして、私からされるの、待ってる？」

「ん…いや、こっちも…してくれるの待ってたから…」

「まいっか、それじゃあ私の方から…するね」

「ん…こっち向いて…」

「そう、それじゃ…いくよ」

「あぁ、いやー、そのなんていうか…改めてキスするぞ！

　って感じになると、気まずいというか～あはは…」

「いや、言ったのは私だしね…ちゃんとするよ。うん…うん。」

「それじゃあ…今度こそ…」

「ん…ちゅぅ…」

「ん、どう…だった？」

「私は…ちょっとわかんなかった…一瞬だったし」

「もうちょい長めにやるのがいいのかな～」

「んー…試すか、うん」

「はぁ…ふぅ…はぁ…ん、ちゅっ…ちゅぅっ、ちゅっ…んっ…

ちゅ、んっ…ちゅうっ…」

「ちゅっ、ちゅっ、ちゅうっ…ちゅ～っ…ん、ふぅっ」

「はぁ、はぁ…んんっ、ふぅ、なるほどね、これがキス…」

「これは中々に…いい感じっていうか…」

「ん…悪くない」

「そっちも、そんな感じみたいだね」

「顔見ればわかるよ…それくらい」

「じゃあーもうちょっとだけしよっか？」

「ほ～ら、こっち見て…」

「ん…」

「ふぅ、ふぅ…ん、ちゅぅ…ちゅっ、ちゅ…ちゅぷ…ちゅ…ちゅぅ…」

「んんっ、ふ、ちゅっ…ちゅう、ちゅぅ…ちゅぅ～、ちゅぅ…ふっ…んん」

「はぁ、はぁ…待って…まだやめないで…」

「もうちょっと…もうちょっとだけ…さ」

「んっ…！　ちゅっ、ちゅうっ…ちゅぅ、ちゅっ…ふ、んんっ！

ちゅ、ちゅう…」

「ちゅぅ～っ！　ちゅう、ちゅる…ちゅぷ…んんっ、ちゅっ…ちゅう…んふぅ…」

「はぁ、はぁ…はぁ…ふう…」

「んふ…これ、けっこーいいね」

「もっと、もっとしたくなる…」

「はぁ、はぁ…はぁ、んっ…ちゅっ…ちゅうっ…ちゅっ、ちゅっ…ちゅぷぅ…」

「ちゅぷ、んっ、ふぅ…ちゅっ、ちゅっ…ちゅう…

　んちゅぅ、んっ、んっ…ちゅぅ…ちゅぷぁ…」

「はぁ、はぁ…んっ…ちゅっ…んちゅっ、ちゅぅぅ～…んっ♡

　ぷちゅ、ふっ…れる…れる…」

「れろちゅっ…んちゅっ、れるれる…れるぷちゅ…んんっ！」

「ん、れろれろ…れろ、れる、れぷちゅぅ…んちゅっ、れろれろ…

　れろ、れる～…」

「ぷはぁ…はぁ、はぁ、ふぅ…んんっ…」

「んっ…ごめん、急に舌いれて、びっくり…したよね？」

「その…なんかしたくなったっていうか…そんな感じ…」

「どーせ、エッチな事するんだから…これくらい、いいでしょ？」

「それに…こっちのがふつーのより、気持ち良かったし…」

「ん…いや、なんでもない…」

「その…ちょっと…あれだよ、あれ…」

「もー…仕方ないなぁ…」

「んー…耳、貸して…」

「その…もっかい…しよ…」

「舌を絡ませる…エッチなちゅー…」

「なんか…ハマっちゃったみたいだから…その…」

「いいでしょ？」

「…ふふ♪」

「じゃあ、いく…ね？」

「ふぅ、ふぅ…はぁ、はぁ…はぁむっ…んふぅ…ふぅ…

んちゅ、れるれる…れるちゅ…んちゅ…」

「れろ、れろ、れるりゅりゅ…んふっ♡

れるれろ…れろ、れる、んふっ♡　ふぅ♡」

「れる、れる、んれろ、んんっ♡　れるれる、れぉりゅ…ん♡

れろ、れる…ふぅーっ、ふぅーっ♡　れろれろ、れるぷちゅぅ♡」

「んっ…はふぅ…はぁ、はぁ…ふふっ♡」

「とろけちゃいそ…はぁ…んっ♡」

「はぁ、はぁ…ふぅ!?　んちゅぅ…ん♡

れろれろ、れるちゅっ…れるれりゅ…れろれろ…」

「んんっ♡　はぁ、ふーっ！　んぁ♡

れろ、れる、れろちゅ…れるれりゅ…はぁ、ふぅーっ♡

れるれる、れろ、れる、れるちゅぷぅ…んんっ♡」

「ぷはぁ…はぁ、はぁ…はぁ…んんぅ♡」

「もう…急にしてくるの…びっくりする…」

「全然…嫌とかじゃないけど…さ～。気持ちいーし」

「はぁ、はぁ…でも…このままだとキスしてるだけで…

　終わっちゃいそうじゃない？」

「私は…それでもいい…けど…」

「ううん、やっぱ駄目…ここまで来たら…止まりたく…ないし」

「そっちも、キスだけで終わりじゃ…嫌でしょ～？」

「そこ…そんなになってるし…」

「ふぅ…ふぅ…私とキスして…こんなになっちゃったんだよね？」

「ふふっ…そうだよねーんふふっ♡」

「ちょっと達成感かも…ぶい♡　なんちゃって」

「んっ…はぁ、はぁ…んじゃさ…そろそろ…ね？」

「私もこうなってるのに、使わないのも…あれだし…そろそろ…しよ？」

「早く…挿れてほしい…その…おちん…ちん」

「んっ！　あっ…」

「んっ…はぁはぁ、ふふっ…興奮してるんだ～」

「ん…でも、こういう事誘ってる私の方が…変態なのかな…？」

「まぁ、いいよね…細かい事とか…」

「とにかく、今は…しよ」

「ん…服、脱ごっか…」

「今日は特別に…脱がしてしんぜよう…」

「だからあんたも…私の…脱がして？」

「ん～」

「はぁ、ふぅ…あんたの裸見るの…結構久しぶりかも…」

「そうだよね、昔はよくお風呂とか入ってたのにね…」

「こんなに大きくなって…随分変わったね」

「って、私も…そうなのかな？　胸とか…こんなに大きくなったし？」

「あんたから見て…私って…どう？」

「ちゃんと…変わった？　その…良い意味で…」

「…いや、やっぱなし。今のなし…」

「慣れないこととか聞くもんじゃないね～うん」

「じゃあ…んっ…そろそろ…挿れよっか？」

「あ…はい、これ…コンドーム」

「準備いいでしょ～ちゃんと買ってきたんだから」

「ふぅ…ふぅ…ん…こんな感じかな～？

教科書で見ただけだから、うまくつけられてるかわかんないけど…

多分平気だよね～」

「ふぅ…じゃあ…ね？」

「場所…わかる？　ここらへん…なんだけど…」

「はぁ、ふぅ…んっ♡　はぁはぁ…そう…そこ♡」

「んんっ♡　音鳴ると…なんかエッチな感じ…すごいするね…はぁ、はぁ…」

「はぁ、はぁ…言ったでしょ…うずいてるって…んんっ♡」

「ぐちょぐちょになって…受け入れ準備…できちゃってるの」

「んっ！　そんな鳴らさないで…恥ずかしい…んんっ！」

「はぁ、はぁ、ほらー…んっ、遊んでないで…挿れて…」

「私の初めて…もらって？」

「はぁ、はぁ…ふぅ…ふっ…んんっ！」

「あっ、入って…んんっ♡　はぁ、はぁ…んんっ♡」

「んんっ♡」

「はぁ、はぁ…これ、本当に入ってる？」

「ふふっ…そうだよね…お腹の中、じーんってして…んんっ♡」

「大丈夫…んんっ…不思議な感じだけど…痛くないよ」

「ふふっ…むしろそっちはどーなの？」

「なんとも言えない顔…してるけど…」

「気持ちいいって事？」

「ふふ、なら良かった…」

「じゃ、もっと気持ち良くなってよ…」

「私の、ここ…使ってさ…」

「セックスなんだし、2人で気持ち良くならなきゃ…でしょ…」

「はぁ、はぁ…んっ…ちゅっ♡」

「えへ…♡」

「んっ！　あっ…」

「はぁ、はあ！　んっ！　ふっ！　ふっ！　ぁっ、ふっ！

んぅぅ…うぅ…んっ！」

「へぁ、へぁ…あふ、急に動いて…ふふ、我慢…できなかったんだ…」

「そんなに…良いの？　私の…んっ！　ふっ、ふぅ…んふっ…

はぁ、はぁ…ふぅぅ…！」

「ん…いいよ…あんたが…気持ちいーなら…んっ、うぅ…んっ、んふぅ…！」

「私も…はぁ、はぁ…気持ちいーし…んっ！

はぁ、ふぅ、ふぅ…んふぅっ…はぁ、はぅぅ…」

「ふぅーっ…ふぅーっ！

んふっ、ふっ…ふぅぅ…はぁ、はぁっ…ふっ…んうぅ…♡」

「あ…そこぉ…んぅ…はぁ、ふーっ、ふーっ…んんぅっ！

はっ、はっ…んんっ♡」

「んっ…ああぅっ…あんっ…はぁ、はぁ、んんんっ…」

「ん、ごめ…変な声…出ちゃった…はぁ、はぁ…んんっ…」

「その、あんたのが…当たって…んんっ！　ビクってしちゃって…」

「変な感覚だったから…さ…んぅ…はぁ、はぁ…ふぅ、ふぅ…んっ…うぅっ…」

「へ…あっ！　んっ！　あんっ♡　あっ！　あっ！　はぁぁ…んんっ♡」

「んーっ！　あんた、今…わざと…したでしょ！　んんっ！

はぁ、はぁ、うぅ…んんっ！」

「ん…たしかに…はぁ、ふぅ…なんか…悪くない…とこ…だけど…」

「声…出ちゃうの…恥ずかしいよ…んっ、ふっ…ふっ…はぁぅ…ふぅーっ！」

「んぁっ！　あんっ！　あぁっ！　あんっ！　うぅぅっ！

あぁ、はぁっ！　はうぅっ！」

「はぁー！　はぁーっ！　恥ずかしいって…言ったのにぃ…んんっ！」

「あんたが…んんぅ…聞きたいなら…はぁ、ふぅ…んんっ！

いいけど…さぁ…んんっ！」

「んっ！　んっ！　んぁっ…はぁ、ふぅ…ふぅぅ…！　んっくっ！

ふぁ…はぁ、ふぅ…！」

「ふぅ…ふぅぅ…はぁ、はぁ…あぁっ！　あっ！　あぅっ！　んんっ！

んんっ！」

「で、でも…そこばっかり責められたら…んんっ！　あっ！　あっ！」

「んんんっ…なんか…体痺れて…んんっ！　来る…

変なの…来ちゃうっ…んんっ！」

「んんっ！　あっ！　あぁっ！　くぅぅっ！　んっ！

　駄目…止まらない…んっ！　んんっ！」

「はぁ、はぁ！　ふぅーっ！　ふぅーっ！　んんんっ！

　んっ…あぁぁ…んんんんんんっ！」

「んんっ！　くぅ…はぁ、んっ…あぁぁ…あっ…んんんぅ…♡」

「はぁ、はぁ…んっ…今…私…んんっ！」

「…んんっ…もう！」

「んんっ…はぁ、はぁ♡　駄目…そのままで動いて…」

「顔見るの…今は駄目…はぁ、はぁ…ふっ…んっ、んんっ…」

「ん…気持ち良かった…から…」

「はぁ、はぁ…気持ち良すぎて…その…変な顔…してる気がして…はぁ、はぁ…」

「んふっ…はっ…ふぅ…やだよ…恥ずかしいじゃん～スケベ～」

「んんっ！　あっ…はぁ、はぁ…というか…

あんた…調子に乗りすぎ～ずっといいトコ…んんっ！」

「はぁ、はぁ…あぁっ！　んふぅ、ふぅ…そんなやつには…お返し…

しないと…ね」

「んっ…ちゅっ！」

「へへ、知ってる？　耳って性感帯なんだよ？」

「だから…こうすれば…ん…ちゅっ…！」

「はぁ、はぁ…ちゅうっ…ちゅっ…んふっ…ちゅっ…んんっ！　はぁ、はぁ…」

「んぁっ…はぁ、んちゅっ…ちゅぅっ…ちゅぷ、ちゅっ…」

「ふーっ…ふーっ…！　気持ちい～でしょ！

ふぅ、ちゅっ…ちゅうう…んふっ…れる…ちゅっ♡」

「んふっ…中で、おちん…ちん、大きくなった♡　やっぱり…」

「れるれる…れろりゅ…はぁ、んっ！　ふーっ、ふぅーっ…んんっ！」

「れろれろ…れろれりゅぅ～…れるぷちゅっ…ちゅうっ…はぁ、はぁ…」

「ほーら…幼馴染に耳舐められて…感じちゃえ～…」

「れるれる…れろ、れろれちゅ…んふっ、ちゅっ、ちゅっ…れるりゅ～」

「はぁ、ふぅ…んんっ…逃さないから…♡　んふっ…れるれる…れろりゅ…」

「れるれる～れろちゅ～っ…ぷはぁ♡」

「はぁ、はぁ…んふっどーだ♡　んっ、あふっ…んっ！　んん！」

「気持ちい～だろ？　ん？」

「てっ…!?　んんっ♡　大きくなりすぎかも～…んん♡」

「んっ、はふぅっ、んふーっ、んっ、んっ♡　んんっ♡　はぁ、ふぅ…んんっ♡」

「ふぅっ！　わかった…気持ちいいのはわかったから…んんっ♡」

「そこ…そんなにドチュドチュするの…んんっ！　禁止～っ！

んあっ、あぁぁ…！」

「はぁ、はぁ…でも、んんっ！　耳、舐められるの…好きなんだね…んんっ！」

「なら、もっと、してあげる…♡」

「はぁ…むっ…んちゅぅ…れる、れる…れるぶちゅっ…

はぁ、んふーっ、ふーっ…」

「んりゅ、れるれる、れぇろ…れろれろ…れるりゅぅ…んっ♡」

「んふっ♡　はぁ、んりゅ、れるれる…れるちゅ…

んちゅ、んんっ…はぁ、はぁ…んんっ♡」

「れるれろ、れるちゅ…ぷちゅっ…んっくっ♡　んんっ、ちゅっ！

ちゅぅぅ～♡」

「ぷはぁっ…んんっ、はぁ、はぁ…」

「あんた…本当に好きなんだね…舐められるの♡」

「中で、どんどん大きくなってるもん…んっ！　はぁ、あぅっ…んんっ♡」

「ふぅ、ふぅ…ふぅん、そーなんだ…♡」

「じゃあ…」

「こっちの方も、舐めてしんぜよ～」

「ふぅふぅ…ん…ちゅっ…ちゅうっ…んちゅっ…んんぅ…ちゅっ！

ん…ふぅ…ふぅ…」

「んぁっ…はぁ、ちゅっ…ちゅうっ…ちゅぶちゅっ…ちゅりゅりゅ…」

「はぁ、んっ…ふぅ、ふぅ…こっちも、気持ちいい？　んっ…ちゅっ♡」

「感謝してくれて…いいんだからねっ…♡　んちゅっ、ちゅ、ちゅうぅ…」

「たくさん舐められて…れるれる…訳わかんなくなるくらい…

気持ちよくなっちゃえ♡　んっ！」

「れろれろ…れるちゅぅ…んんっ♡　んちゅ、れる…れろぉ～れるれる♡」

「れるれる～…んっ♡　くっ♡　はぁ、はぁ…れるれる…れろちゅっ♡」

「れるれちゅ…じゅりゅれりゅ♡　ぷちゅぅぅぅーふぅ…んふっ♡

れるれる…」

「はぁ♡　はぁ♡　んんっ♡　んちゅっ…ちゅっ…ちゅうぅぅぅ♡」

「はふぅ、はぁ、はぁ…満足してくれたようで…良かった♡」

「って違った…私、なんであんたの舐めてたんだっけ？　はぁはぁ♡」

「んんっ♡　はぁっ…うっ…んんっ♡　まぁ、いっか～」

「はぁ、はぁ…ふぅっ♡　ふーっ…ふーっ！　そろそろ、限界でしょ？」

「んっ…私も…そろそろ、またビリビリしたの…来そうだからさ♡」

「一緒に…気持ち良くなろ♡」

「だから、出して…あんたの…溜まってるの…んっ、全部、全部♡」

「んんっ！　はぁ、はぁっ！　んっ！　お、おくぅ…来たぁ♡

容赦なく…奥に、刺されて…」

「すごっ…んんっ！　深いとこ、当たってるっ！　んんっ！

あっ♡　あっ♡　んんっ♡」

「ふーっ！　ふーっ！　んんっ♡　んちゅっ、れるれる、れるちゅっ♡

んんっ♡」

「はぁ、はぁ、いーよ、その感じ…すごく好き♡

この調子で…もっともっと…♡」

「私もぉ…手伝うから…さっ♡」

「んんっ♡　んちゅっ、れるれる…れるちゅっ…れろれろれろ…」

「ふぅっ…ふぅぅんっ！　れるれる、れろぷちゅ…♡　んんっ♡

へぁぁ…んんっ♡　あっ♡　あっ♡　あっ♡」

「んんっ、もう…限界かも…♡　来そうなの…大きいのが、ずん、ずんって♡」

「あんたももう出るよね？　んんっ♡　一緒にイコっ♡　一緒にぃ…♡　」

「んちゅうぅぅ♡　んんっ！　あっ、あっ、あっ…！　はーっ！　はーっ！

ふぅぅんっ！」

「あぁ、もう…らめっ！　くる…大きいの、来ちゃう…」

「んんっ…イク…イク、イク、イクイクイクイクイクっ！」

「んんんんんっ♡　んんんんんんんぅぅぅんんっ！」

「んんっ！　はぁ、はぁ…んんっ！　熱いのっ…んんっ！

たくさん…出てぇ♡」

「はぁ、はぁ…んふぅ…びゅぐ、びゅぐって…ゴム越しでも…熱いぃ…んんっ♡」

「はぁ、はぁ…ふぅ～…んっ…はっ、はぁ…ふぅぅ♡」

「ん…しちゃったね。ほんとに…」

「どうだった？　私の…その…感じは…」

「ん…そ。なら、よかろう…」

「ん…私も、良かったよ…気持ち、良かった」

「だからさ…えと…んー…その…」

「今日は練習って感じだったけど…」

「次はふつーに、相手…してくんない？」

「互いに、気持ち良くなる目的で…って感じで」

「セフレっていうの？　まぁ、そんな感じで～」

「いーでしょ？」

「ん…それじゃあ、決定」

「とりあえず…今日はありがとね」

「また、しよ～」